

診ているのは、
見えない空気です。



きれいにしよう日本の空を

日本空調サービス株式会社

Nippon Air Conditioning Services Co., Ltd.

**2019年3月期
決算説明資料**

2019年6月

東証1部・名証1部：4658

日 時：2019年6月5日(水) 15：30～16：30

場 所：サピアタワー(東京都)

プレゼンター：代表取締役社長 田中 洋二

※ 説明会開催日（2019年6月5日）時点の情報に基づく内容です。

※ 内容につきましては、ご理解いただきやすいよう当社で加筆・修正しておりますことをご了承ください。

皆様、こんにちは。

日本空調サービス(株) 代表取締役社長の田中 洋二でございます。

これより、2019年3月期の決算説明をさせていただきます。
よろしくお願いいたします。

- I. 日本空調グループの概要
- II. 日本空調グループの強み
- III. 業績ハイライト
- IV. 2019中期5カ年経営計画
- V. 株式情報

こちらの I ～ V の順でご説明させていただきます。

I. 日本空調グループの概要

II. 日本空調グループの強み

III. 業績ハイライト

IV. 2019中期5カ年経営計画

V. 株式情報

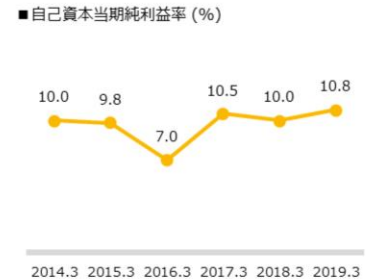
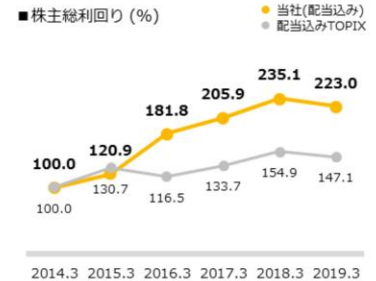
まずはじめに、日本空調グループの概要についてご説明いたします。

会社概要	
設立	1964年4月28日
本社	愛知県名古屋市 名東区照が丘239-2
資本金	1,139百万円
事業内容	総合建物設備 メンテナンスサービス業
従業員数	連結 2,993名 単体 1,990名
売上高	連結 463億円 単体 331億円
拠点数	国内 81拠点 海外 11拠点

※社員数は2019年3月末現在の数値となります。
 ※売上高は2019年3月期の数値となります。
 ※拠点数は2019年4月末現在の数値(連結・住所ベース)となります。

株式情報	
株価	668円
時価総額	234億円
配当金	1株当たり25円
配当性向	50.1%
配当利回り	3.74%
株主数	5,664名
PER	13.39倍 (EPS: 49.87円)
PBR	1.37倍 (BPS: 486.83円)
ROE	10.8%

※株価及び時価総額は2019年5月31日終値を使用しております。
 ※配当金、配当性向及び配当利回りは2020年3月期配当予想値を使用しております。
 ※株主数は2019年3月末現在の数値となります。
 ※PERは2020年3月期予想値、PBR及びROEは2019年3月期実績値を使用しております。



※株主総利回りは2014年3月期を基準(100.0)として算出しております。

診ているのは、見えない空気です。

4

I. 日本空調グループの概要

当社（日本空調サービス(株)）は、本社が名古屋市名東区にございます。事業内容といたしましては、総合建物設備メンテナンスサービス業を展開しております。

従業員数は連結2,993名、単体1,990名です。

売上高は連結463億円・単体331億円、拠点数は国内に81拠点、海外に11拠点でございます。

株式情報としましては、2019年5月31日の終値は668円、本日（6月5日）の終値は675円でした。時価総額は234億円です。

今期（2020年3月期）の1株当たり年間配当金は25円の予想、配当性向としましては50.1%の予想です。

配当利回りは3.74%、株主数は5,664名です。

PERは13.39倍、PBRは1.37倍、ROEは10.8%と、市場の平均値から見ると、悪くない水準です。

当社の株主総利回りは、配当込みTOPIXと比較すると、過去5年間、高い水準で推移しています。

全てのステークホルダーの幸せ向上



社会的価値創造

経営理念

お客様に安心感を与える最適な環境を維持するために、
技術力と人的資源を結集させ、高品質サービスを提供する。



経済的価値創造

診ているのは、見えない空気です。

5

I. 日本空調グループの概要

当社グループは「全ステークホルダーの幸せ向上」を目的として、「お客様に安心感を与える最適な環境を維持するために、技術力と人的資源を結集させ、高品質サービスを提供する」という経営理念のもと、社会的な価値を創造することによって、経済的価値を創造することを目指しております。

■社会的価値創造

経営理念

お客様に安心感を与える最適な環境を維持するために、
技術力と人的資源を結集させ、高品質サービスを提供する。

当社グループは、建物設備のメンテナンス・維持管理、設備・環境診断、ソリューション提案を行うサービス部門を中核に、リニューアル工事を主体とする設備工事部門を併せ持つ、建物設備のトータルサポート企業です。中核事業のメンテナンスサービスで培った技術力を生かし、お客様の立場に立ったきめ細かなサービスを提供します。

■ビジネスモデル



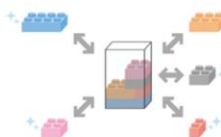
■事業内容(動画196sec)

PM 保守
Preventive Maintenance

確かな技術力で“万が一”を未然に防ぐ、
高品質メンテナンス。

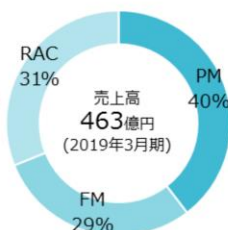
FM 保守・管理
Facility Management

求められる環境を維持するために、
常に見守ることも私たちの技術。

RAC 設計・施工
Reform and Construction

あらゆるビルの快適環境創造に、
いつも最適なお提案と施工を。

■事業部門別売上高構成



診ているのは、見えない空気です。

I. 日本空調グループの概要

当社グループは、建物設備のメンテナンス・維持管理、設備・環境診断、ソリューション提案を行うサービス部門を中核に、リニューアル工事を主体とする設備工事部門を併せ持つ、建物設備のトータルサポート企業です。

事業内容を分かりやすくお伝えするために、新たに会社案内動画を作りましたので、ここでご覧いただきたいと思います。

(会社案内動画リンク)

<https://www.youtube.com/watch?v=iOv4Azu87ZI&feature=youtu.be>

「PM」は、全国47都道府県に展開している拠点から、お客様の施設へ赴き、メンテナンス・保守等を行う事業です。

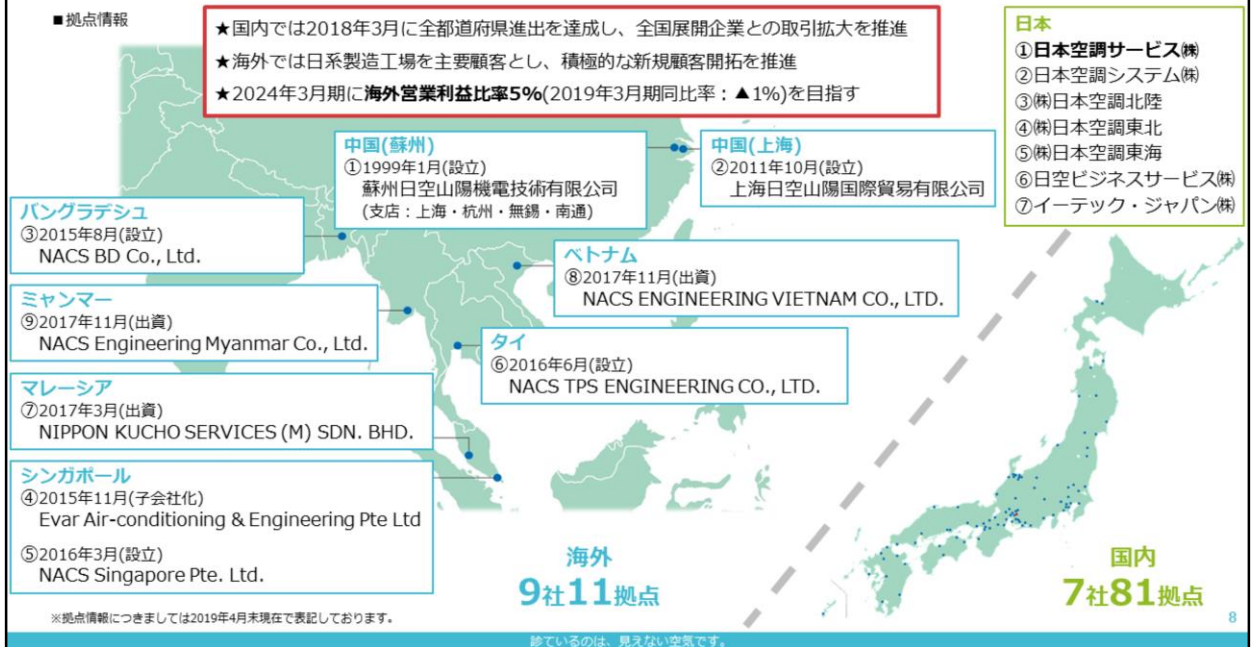
「FM」は、病院等、お客様の施設に当社の社員が常駐し、24時間体制で建物設備を維持管理する事業です。

「RAC」とは、リニューアル工事のことです。当社がPM、FMで管理しているお客様の施設を中心に、設備が古く、調子が悪くなった場合に、新しい設備に入れ替える工事を行います。

既存の建物のリニューアル工事という点で、新築工事を得意とする大手ゼネコン、サブコンと競争になりにくい、比較的競争の少ない環境で事業を展開しております。

事業別の売上高構成としましては、PM40%、FM29%、RAC31%となっております。





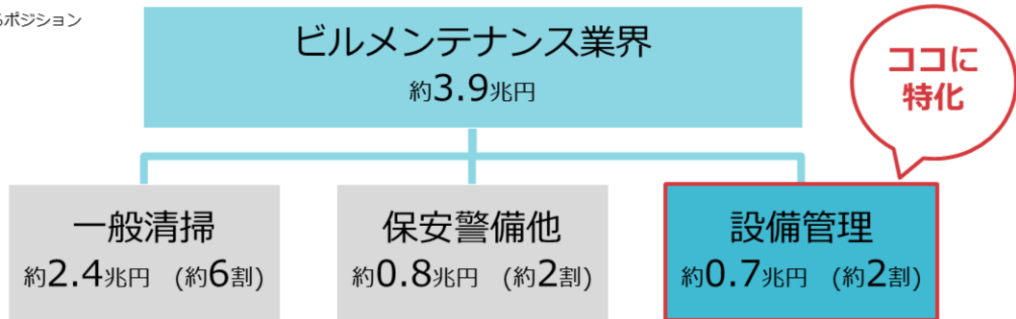
I. 日本空調グループの概要

国内においては、当社と連結子会社6社の計7社(81拠点)、海外においては、連結子会社は9社(11拠点/7カ国)ございます。

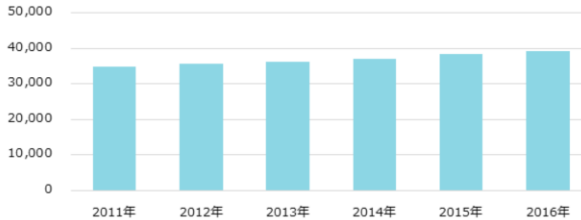
国内は47都道府県に営業所を出店しており、その強みを生かして、近年、地方の製造工場における仕事の受注を増やしております。

海外は7カ国に進出しており、現在、東南アジアの進出拠点において、日本国内と同様に、技術力だけでなく提案力を生かした強みを発揮し、信頼と実績を積み重ねるべく、営業活動を強化し、新規顧客の開拓に尽力しております。

■業界におけるポジション



■ビルメンテナンス業界の総売上 (億円)



※全国ビルメンテナンス協会の「歴年の業界の総売り上げ」「歴年の実態調査の概況」の推計値を用いて算出しております。

■ビルメンテナンス業界における同業他社との比較

	時価総額	ROE	売上高	営業利益	営業利益率
A社	1,649億円	11.0%	2,958億円	168億円	5.7%
B社	638億円	9.5%	979億円	63億円	6.5%
当社	234億円	10.8%	463億円	26億円	5.6%
C社	62億円	8.6%	364億円	19億円	5.5%

※各社の時価総額は2019年5月31日終値を使用しております。

※A社のROE、売上高、営業利益及び営業利益率は2017年度の数字となります。

※B社及びC社のROE、売上高、営業利益及び営業利益率は2018年度の数字となります。

9

診ているのは、見えない空気です。

I. 日本空調グループの概要

ビルメンテナンス業界のうち、当社は設備管理を中心に事業を展開しております。

ビルメンテナンス業界の市場規模(2016年時点)は約3.9兆円で、そのうち設備管理が約0.7兆円と「全国ビルメンテナンス協会」が発表しておりますが、実際はこれ以上の市場規模があると考えられます。

「独立系」の建物設備メンテナンス企業としては、当社はかなり大きい規模であると言えます。

I. 日本空調グループの概要

II. 日本空調グループの強み

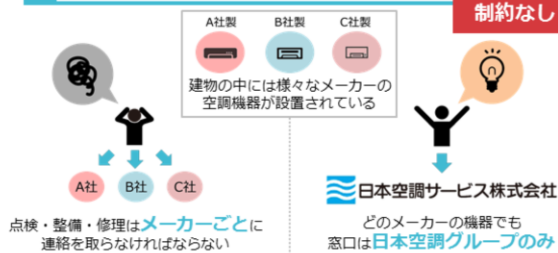
III. 業績ハイライト

IV. 2019中期5カ年経営計画

V. 株式情報

次に、日本空調グループの強みについてご説明させていただきます。

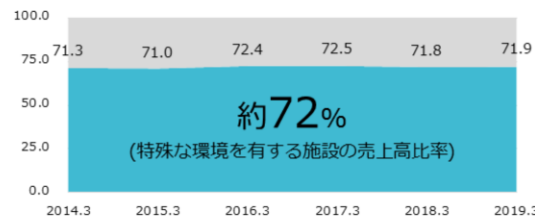
1 独立系企業グループのためメーカー問わず対応可能

メーカーの
制約なし

3 維持管理に高度な技術力を要する施設の比率が高い

参入障壁が
高い

■特殊な環境を有する施設の売上高比率 (%)

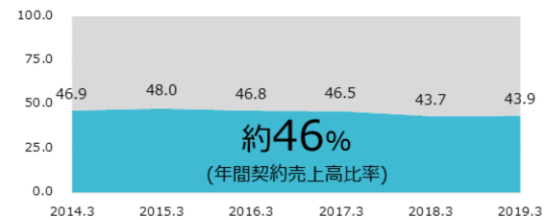


※特殊な環境を有する施設とは「病院及び研究施設」「製造工場等」「その他の特殊な施設」を指しています。

2 売上高の半分近くが安定した年間契約

景気影響が
小さい

■年間契約売上高比率 (%)



4 国内600床以上の病院におけるシェアが約12%

大規模病院
が得意

■国内600床以上の病院における受託割合 (%)



※600床以上の病院における当社グループの受託割合です。(当社調べ)

11

診ているのは、見えない空気です。

II. 日本空調グループの強み

1. 独立系企業グループのためメーカー問わず対応可能

大きな病院・工場、その他特殊な建物の中には様々なメーカーの機器があり、それぞれに不具合が生じた際、どのように修理すれば良いのか、施設の設備担当者様は悩まれます。独立系企業である当社グループでは、どのメーカーの機器でも対応することができます。

2. 売上高の半分近くが安定した年間契約

2019年3月期現在の年間契約売上高比率は43.9%です。当社グループは、年間契約の仕事を受注することにより、業績の安定に繋げております。

近年、年間契約売上高比率が少し低下しているのは、製造工場の仕事が増えたことが理由です。製造工場の仕事は年間契約よりも、スポットの修繕工事が比較的多いため、若干、年間契約売上高比率が下がっております。

3. 維持管理に高度な技術力を要する施設の比率が高い

オフィスビルでは、皆様のご家庭にあるエアコンを大きくしたものが設置されており、故障しても緊急性は低く、管理に高度な技術は必要ありません。

一方、病院や工場は、手術室やクリーンルーム等、オフィスビルと違う特殊な環境が必要となり、維持管理に高度な技術を必要とします。

当社は、特殊な環境を有する施設の仕事に傾注しており、2019年3月期現在の特殊な環境を有する施設の売上高比率は、71.9%です。これを、5年後に75%以上とすることを目指しております。

4. 国内600床以上の病院におけるシェアが約12%

国内の大病院(600床以上)におけるシェアは病床数ベースで約12%です。病院では手術室、無菌室等の維持管理に高度な技術が必要とされるため、当社の強みを発揮することができます。

■特殊な環境を有する施設への傾注の理由

オフィスビル

会議室の空調機器が故障

▼
我慢してその部屋を使う
別の部屋を使う

代替可、緊急性が低い



病院

手術室の空調機器が故障

▼
手術室が使えない
手術ができない

製造工場

製造工場の空調機器が故障

▼
製品の品質不良
製造ラインの停止

⚠ 代替不可、緊急性が高い



維持管理に高度な技術力が必要となる

診ているのは、見えない空気です。

12

Ⅱ. 日本空調グループの強み

特殊な環境を有する施設への傾注の理由

オフィスビルでは、皆様のご家庭にあるエアコンを大きくしたものがほとんどを占めております。昔は地下に大きな冷凍機、ボイラーを設置し、集中管理方式で全館を冷暖房していたことにより、ひとつの機械が壊れると全館に影響が出るため、当社の技術を活かせる仕事が多くありました。

しかし、最近はセパレート方式がオフィスビルで採用され、各部屋で冷暖房を管理することが一般的になっています。

もし機器が壊れたとしても、数日間、部屋単位で不便な状況になるだけなので、緊急性は低く、壊れてから直すという対応でも問題はありません。

一方、病院や工場はオフィスビルと違い、万が一空調機器が故障した場合、患者さんの容態に関わる、製造や生産が止まるといった緊急事態に陥るため、万が一のことが無いよう、高い技術力をもってきめ細やかに空気の清浄度、温湿度等を維持管理をする必要があります。このような、当社の高い技術力を生かせる特殊な環境を有する施設の仕事に傾注し、他社との差別化を図っております。

■メンテナンスサービス業務例と特徴

中央監視業務



日常測定業務



定期メンテナンス業務



ソリューション提案



環境診断業務



消毒・除染業務



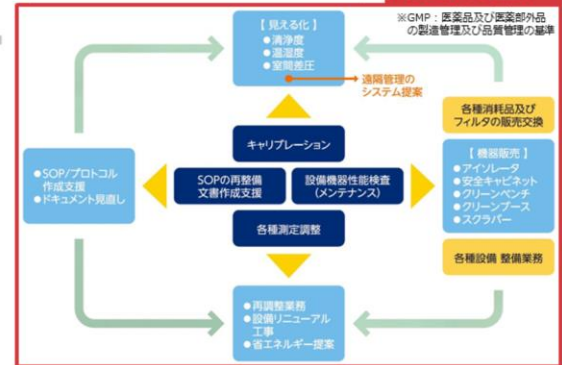
■予防保全点検の実施と適切な中長期保全計画の策定

「時間計画保全」だけではなく
設備の状態を定期点検の中で診断し
故障を予測して保全を行う「状態監視保全」の組み合わせ
過剰な整備費用抑制と設備停止リスク低減の両立

■バリデーション・トータルサポート

(医薬品等における製造環境の適合性検証及び文書化の支援)

GMPの国際基準準拠により
バリデーション需要拡大



診ているのは、見えない空気です。

13

II. 日本空調グループの強み

当社の病院における業務の一例です。

社員が病院に常駐し、24時間365日体制で行う中央監視業務、日常的な測定業務、定期メンテナンス業務がありますが、これらは他のメンテナンス会社でも行っている業務です。他社にはない当社の強みとしては、

・ソリューション提案

…お客様の施設を設備管理する中で、省エネルギーや省コストのためにどこをどう改善したら良いか等、提案を行います。

・環境診断業務

…施設内が適切な環境を維持できているかを診断します。

・消毒、除染業務

…環境微生物を低濃度に保ち、汚染・感染リスクを低減します。

これらの付加価値サービスが当社の強みであり、病院をはじめ、多くのお客様から高評価をいただいております。

また、定期点検で設備の状態を診断し、故障を予測して保全を行うことで、過剰な整備費用を抑え、設備停止リスクを低減させる高品質な設備の維持管理を行っております。

また、今年の4月、「医薬・再生医療エンジニアリング部」を新設し、医薬・再生医療に関する研究施設・工場等へ、バリデーション業務を重点的にサポートする体制を整えました。

2014年に、日本のGMP（医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準）を国際基準に準拠させることが必須となり、バリデーション・サポート※の需要は増えております。当社は設備メンテナンスと合わせたバリデーション・サポート業務を2015年から開始いたしました。

設備メンテナンスと合わせたバリデーション・サポートを行える会社は少ないため、今後当社が活躍できる分野のひとつになると考えます。

※安心・安全な医薬品を製造するための設備、環境作りをサポートする業務。

I. 日本空調グループの概要

II. 日本空調グループの強み

III. 業績ハイライト

IV. 2019中期5カ年経営計画

V. 株式情報

次に、連結業績ハイライトについてご説明します。

■ 経営成績

(百万円、%)

連結 (累計期間)	2018年3月期			2019年3月期			2020年3月期(予想)		
	金額	売上高 比率	前年同期比 増減率	金額	売上高 比率	前年同期比 増減率	金額	売上高 比率	前年同期比 増減率
売上高	45,467	100.0	5.4	46,389	100.0	2.0	48,000	100.0	3.5
メンテナンスサービス売上高	30,792	67.7	0.3	31,962	68.9	3.8	33,000	68.8	3.2
リニューアル工事完成工事高	14,675	32.3	17.9	14,427	31.1	▲1.7	15,000	31.2	4.0
売上総利益	8,224	18.1	5.4	8,547	18.4	3.9	8,650	18.0	1.2
販売費及び一般管理費	5,743	12.6	6.1	5,946	12.8	3.5	6,000	12.5	0.9
営業利益	2,481	5.5	3.6	2,600	5.6	4.8	2,650	5.5	1.9
経常利益	2,579	5.7	3.9	2,725	5.9	5.7	2,750	5.7	0.9
親会社株主に帰属する当期純利益	1,561	3.4	4.2	1,792	3.9	14.8	1,750	3.6	▲2.4

■ 2019年3月期実績について

- ①売上高：太陽光パネル設置工事の減少等があったものの、製造工場等におけるスポットメンテナンスの増加等が寄与し増加
 ②売上総利益率：完成工事総利益率が減少(14.1%⇒13.7%)したものの、メンテナンスサービス売上総利益率の増加(20.0%⇒20.6%)により増加
 ③販売費及び一般管理費：主に人件費の増加等により増加
 ④営業利益／経常利益：主に売上総利益の増加等により増加
 ⑤親会社株主に帰属する当期純利益：営業利益の増加及び法人税等調整額を含めた税負担が減少したこと等により増加

■ 2020年3月期予想について

- ①2019年4月に新設した『医薬・再生医療エンジニアリング部』を中心に医薬品製造施設等へのアプローチを強化し、営業利益率5.5%維持を目指す
 ②効果的なネットワークの活用、技術力及び提案力の強化に注力し、積極的な新規顧客開拓による既存海外グループ会社の早期収益化を目指す
 ③2019年3月期にあった税負担減少要因が無くなるため、親会社株主に帰属する当期純利益は減少の予想

※2011年3月期よりセグメントを単一としておりますが、ここでは種類別として表示しております。

15

診ているのは、見えない空気です。

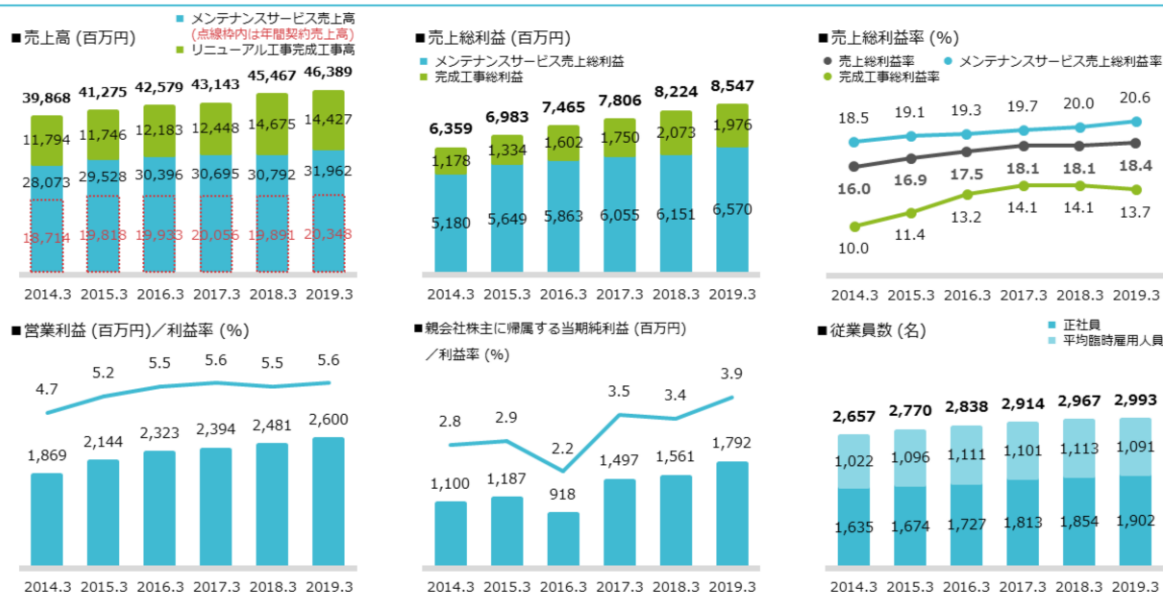
Ⅲ. 連結業績ハイライト

2019年3月期の結果としまして、
 売上高463億89百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益26億円（前年同期比4.8%増）、経常利益27億25百万円（前年同期比5.7%増）と好調です。

親会社株主に帰属する当期純利益については、同期に吸収合併した日本空調四国(株)の繰越欠損金が約3億円あり、税負担が1億円程度軽減したことが寄与し、17億92百万円（前年同期比14.8%増）となりました。

2020年3月期の業績予想としましては、売上高480億円（前年同期比3.5%増）、営業利益26億50百万円（前年同期比1.9%増）、経常利益27億50百万円（前年同期比0.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益17億50百万円（前年同期比2.4%減）の予想です。

親会社株主に帰属する当期純利益の予想については、2019年3月期にあった税効果が2020年3月期はなくなるため、このような予想とさせていただきます。



※2011年3月期よりセグメントを単一としておりますが、ここでは種類別として表示しております。

診ているのは、見えない空気です。

16

Ⅲ. 連結業績ハイライト

2014年3月期～2019年3月期にかけての業績推移です。

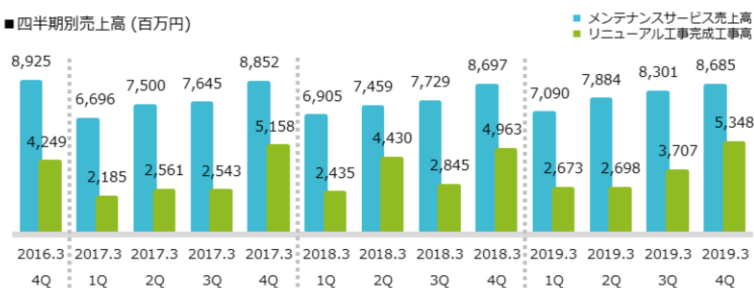
売上高、利益ともに順調に伸びております。

親会社株主に帰属する当期純利益は、2016年3月期以外について、堅調に右肩上がりで伸びております。

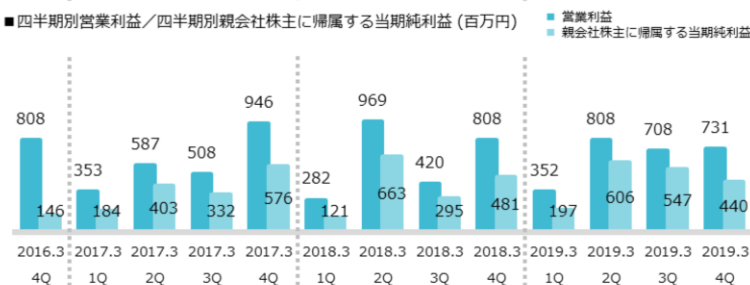
(※2016年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益は、子会社における退職給付引当金の見積り方法変更による特別損失計上の影響がございました。)

また、従業員数も順調に増加しており、2019年3月期は2,993名となっております。

■ 四半期別売上高 (百万円)



■ 四半期別営業利益／四半期別親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



※2011年3月期よりセグメントを単一としておりますが、ここでは種類別として表示しております。

診ているのは、見えない空気です。

①メンテナンスサービス売上高

・前年同四半期比

2019.3 1Q : +184百万円(+2.7%)
 2Q : +425百万円(+5.7%)
 3Q : +571百万円(+7.4%)
 4Q : ▲11百万円(▲0.1%)

・3Qに病院及び研究施設、製造工場等におけるスポットメンテナンスが増加

②リニューアル工事完成工事高

・前年同四半期比

2019.3 1Q : +238百万円(+9.8%)
 2Q : ▲1,731百万円(▲39.1%)
 3Q : +861百万円(+30.3%)
 4Q : +384百万円(+7.7%)

・前期2Qにあった小中学校へのエアコン設置工事や太陽光パネル設置工事の減少等が影響

③営業利益

・前年同四半期比

2019.3 1Q : +69百万円(+24.7%)
 2Q : ▲161百万円(▲16.7%)
 3Q : +288百万円(+68.6%)
 4Q : ▲76百万円(▲9.5%)

④親会社株主に帰属する当期純利益

・前年同四半期比

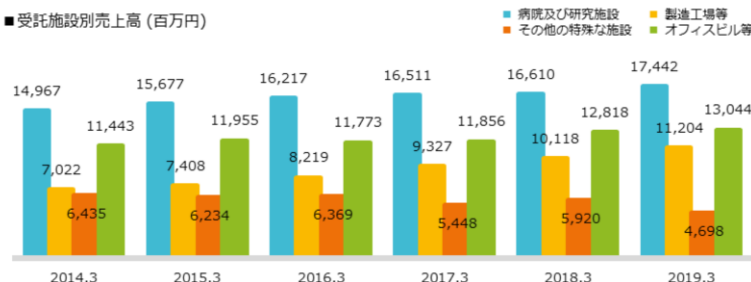
2019.3 1Q : +75百万円(+62.4%)
 2Q : ▲56百万円(▲8.5%)
 3Q : +252百万円(+85.5%)
 4Q : ▲40百万円(▲8.4%)

Ⅲ. 連結業績ハイライト

四半期別売上高の推移につきましては、例年、第4四半期に工事関連の仕事の駆け込み需要が多くなるのがトレンドです。

営業利益については、売上高全体のおよそ半分を占める年間契約売上高は12等分されて計上されますが、売上原価は均等ではなく発生したタイミングで計上されるため、四半期ごとの利益の変動幅は大きくなります。第4四半期を終えた全体の営業利益は安定して右肩上がりとなっております。

■受託施設別売上高 (百万円)



①受託施設別売上高

・前年同期比

病院及び研究施設 : +831百万円(+5.0%)

※内、スポットメンテナンス : +523百万円(+17.9%)

製造工場等 : +1,086百万円(+10.7%)

※内、スポットメンテナンス : +563百万円(+17.6%)

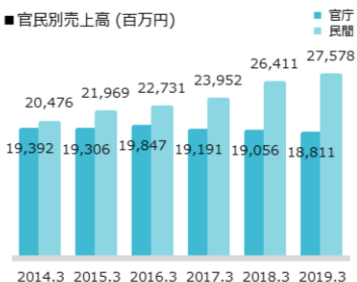
その他の特殊な施設 : ▲1,222百万円(▲20.6%)

※内、リニューアル工事 : ▲628百万円(▲20.8%)

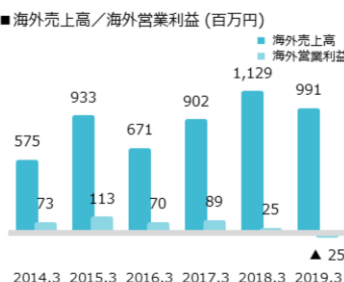
オフィスビル等 : +225百万円(+1.8%)

・特殊な環境を有する施設の比率は71.9%

■官民別売上高 (百万円)



■海外売上高/海外営業利益 (百万円)



②官民別売上高

・前年同期比

官庁 : ▲245百万円(▲1.3%)

民間 : +1,166百万円(+4.4%)

・官民比率は、官庁40.6 : 民間59.4

・製造工場等の受託増を中心に民間売上高が純伸

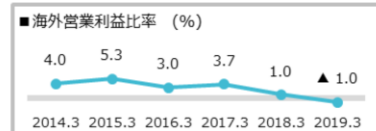
③海外売上高/海外営業利益

・前年同期比

海外売上高 : ▲138百万円(▲12.3%)

海外営業利益 : ▲50百万円(▲199.6%)

・中国を除く海外グループ会社において人件費等が先行



※特殊な環境を有する施設とは「病院及び研究施設」「製造工場等」「その他の特殊な施設」を指しています。

診ているのは、見えない空気です。

18

Ⅲ. 連結業績ハイライト

〈受託施設別売上高について〉

2019年3月期の病院の売上高は前年同期より8億円程度伸びております。病院の新規受注は1カ所（2億円程度）増加でしたが、その他、病院から修繕工事等のご依頼が多かったことが寄与し、売上高が伸びました。

2019年3月期の製造工場等の売上高も10億円程度伸びました。

47都道府県に拠点がある当社の強みを活かし、地方の製造工場の受注を着実に増やしております。

2019年3月期のその他特殊な施設については、前年同期より減少しておりますが、主に(株)日本空調北陸（連結子会社）の太陽光発電事業の売上高減少が要因です。

〈官民別売上高について〉

民間物件の売上高を着実に伸ばしております。

〈海外売上高/営業利益について〉

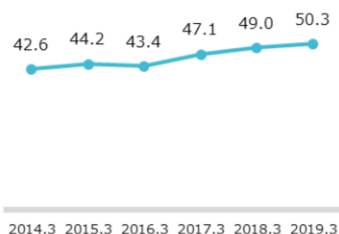
海外は、当社の技術社員と営業社員を派遣し、積極的に営業活動を行っておりますが、人件費がかさみ、海外営業利益は▲25百万円となりました。約20年前に進出した中国では、現地にメンテナンス会社がほとんど存在せず、短期間で収益化できましたが、現在の東南アジアでは、機器修理ができる現地企業が存在するため、国内と同様に技術力だけでなく提案力を生かした強みを発揮し、信頼と実績を積み重ねていく必要があります。また、各国のニーズに見合った営業展開を推進することで、収益化に繋げてまいります。

■財政状態

(百万円、%)

連結 (期末現在)	2018年3月期		2019年3月期	
	金額	前年同期比 増減率	金額	前年同期比 増減率
流動資産	18,993	+2.7	20,225	+6.5
固定資産	13,787	+2.5	13,719	▲0.5
資産合計	32,780	+2.6	33,944	+3.6
有利子負債	2,306	▲20.3	1,790	▲22.4
その他負債	14,124	+2.7	14,746	+4.4
負債合計	16,431	▲1.3	16,537	+0.6
純資産合計	16,349	+6.9	17,407	+6.5

■自己資本比率 (%)

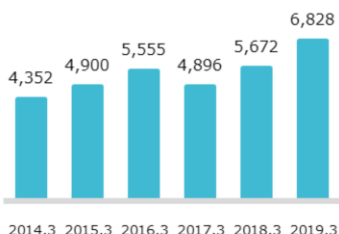


■キャッシュ・フローの状況

(百万円、%)

連結 (累計期間)	2018年3月期		2019年3月期	
	金額	前年同期比 増減率	金額	前年同期比 増減率
営業キャッシュ・フロー	2,898	+150.9	2,655	▲8.4
投資キャッシュ・フロー	▲715	▲135.8	▲127	+82.2
財務キャッシュ・フロー	▲1,479	+1.2	▲1,343	+9.2
現金及び現金同等物の増減額	726	+210.2	1,155	+59.1
現金及び現金同等物の期首残高	4,896	▲11.9	5,672	+15.9
現金及び現金同等物期末残高	5,672	+15.9	6,828	+20.4

■現金及び現金同等物期末残高 (百万円)



診ているのは、見えない空気です。

19

Ⅲ. 連結業績ハイライト

財務状態とキャッシュフローの状況です。

財務状態の方は特に大きな変動等はございません。

有利子負債について、2015年に連結子会社を全て完全子会社化した際の取得資金の長期借入金は返済が進んでおります。

キャッシュ・フローの状況は、営業キャッシュ・フローは安定しており、2019年3月期は26億55百万円、財務キャッシュ・フローは、先程申し上げた長期借入金の返済と、配当金の支払いにより、2018年3月期が▲14億79百万円、2019年3月期が▲13億43百万円となっております。

現金及び現金同等物の増減額は、2018年3月期が7億26百万円、2019年3月期が11億55百万円増加と、現金及び現金同等物が積み上がっている状況です。

現金及び現金同等物期末残高が右肩上がりで推移しており、将来的にこの水準をどうするか検討していく必要があると考えております。

- I. 日本空調グループの概要
- II. 日本空調グループの強み
- III. 業績ハイライト
- IV. 2019中期5カ年経営計画
- V. 株式情報

今年（2019年）の2月に新たに公表いたしました「2019中期5カ年経営計画」についてご説明いたします。

2016中期3カ年経営計画の結果【前中計の振り返り】

(百万円、%)

連結 (累計期間)	2016年3月期(実績)		2019年3月期(計画)		2019年3月期(実績)		
	金額	売上高 比率	金額	売上高 比率	金額	売上高 比率	達成率
売上高	42,579	100.0	48,000	100.0	46,389	100.0	96.6
メンテナンスサービス売上高	30,396	71.4	33,000	68.8	31,962	68.9	96.9
リニューアル工事完成工事高	12,183	28.6	15,000	31.2	14,427	31.1	96.2
営業利益	2,323	5.5	2,500	5.2	2,600	5.6	104.0
経常利益	2,378	5.6	2,600	5.4	2,725	5.9	104.8
親会社株主に帰属する当期純利益	918	2.2	1,600	3.3	1,792	3.9	112.1
1株当たり当期純利益	26.53	—	45.62	—	51.11	—	112.0

利益重視による
選別受注が影響

Clear!!

Clear!!

配当性向
50% ▶ 50.9%
(目標) (実績)

オフィスビル等の
リニューアル工事
好調が影響

特殊な環境を有する
施設の売上高比率
75% ▶ 71.9%
(目標) (実績)

Clear!!

全都道府県への
拠点進出

現地メンテナンス
会社の存在等により
顧客獲得に苦戦

海外経常利益比率
10% ▶ ▲0.7%
(目標) (実績)

※2011年3月期よりセグメントを単一としておりますが、ここでは種類別として表示しております。

※特殊な環境を有する施設とは「病院及び研究施設」「製造工場等」「その他の特殊な施設」を指しています。

21

診ているのは、見えない空気です。

IV.2019中期5カ年経営計画

まず、「2019中期5カ年経営計画」の前に推進しておりました、「2016中期3カ年経営計画」の振り返りです。

- ・売上高は目標に若干届きませんでした。が、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は目標値を達成することができました。
- ・配当性向50%と全都道府県進出は達成しましたが、特殊な環境を有する施設の売上高比率は、71.9%に終わりました。
2019年3月期に、オフィスビルの仕事が特に関東圏で多かった（利益率も良かった）ため、特殊な環境を有する施設の売上高比率は75%に到達しませんでした。
- ・全体の経常利益に対する海外の経常利益比率を10%とする目標を掲げていましたが、残念ながら達成ならず、現状、苦戦しているところです。

長期ビジョン「全てのステークホルダーの幸せ向上」

顧客

高付加価値サービスを提供する

従業員

満足度と技術力を高める

株主

安定した還元を実施する

■10年後に向けて

1 特殊な環境を有する施設に対する高品質サービスの提供及びワンストップサービスの強化	特殊な環境を有する施設の売上高比率 80%以上	4 熟練技術者の養成強化	技術力指数 22P以上
2 海外進出拠点の早期収益化 技術力及び提案力の強化による新規顧客開拓の推進	海外営業利益比率 10%以上	5 国内外での業容拡大 グローバル経営推進による外国籍従業員の積極採用	外国籍従業員数 200名以上
3 従業員満足度向上 「採用」「働き方」「効率化」をキーワードとした各種プロジェクトの推進	従業員満足度 80%以上	6 営業利益及び1株当たり当期純利益の増加	EPS 60円以上
		7 自己資本当期純利益率の維持	ROE 10%以上維持

■社会全体の価値向上に繋げる

E 環境	本業(メンテナンス)による環境負荷低減	S 社会	ダイバーシティの一環として国内外での雇用創出による社会の活性化	G ガバナンス	ガバナンスの継続的な充実による企業価値の向上
----------------	---------------------	----------------	---------------------------------	-------------------	------------------------

※特殊な環境を有する施設とは「病院及び研究施設」「製造工場等」「その他の特殊な施設」を指しています。
 ※技術力指数は当社の「技術系公的資格取得数×資格点数(当社基準)+技術系従業員数」で算出しています。

※従業員満足度は当社実施の従業員満足度調査の結果を基に算出しています。
 ※外国籍従業員数は当社及び海外グループ会社の外国籍の従業員数を指しています。

診ているのは、見えない空気です。

22

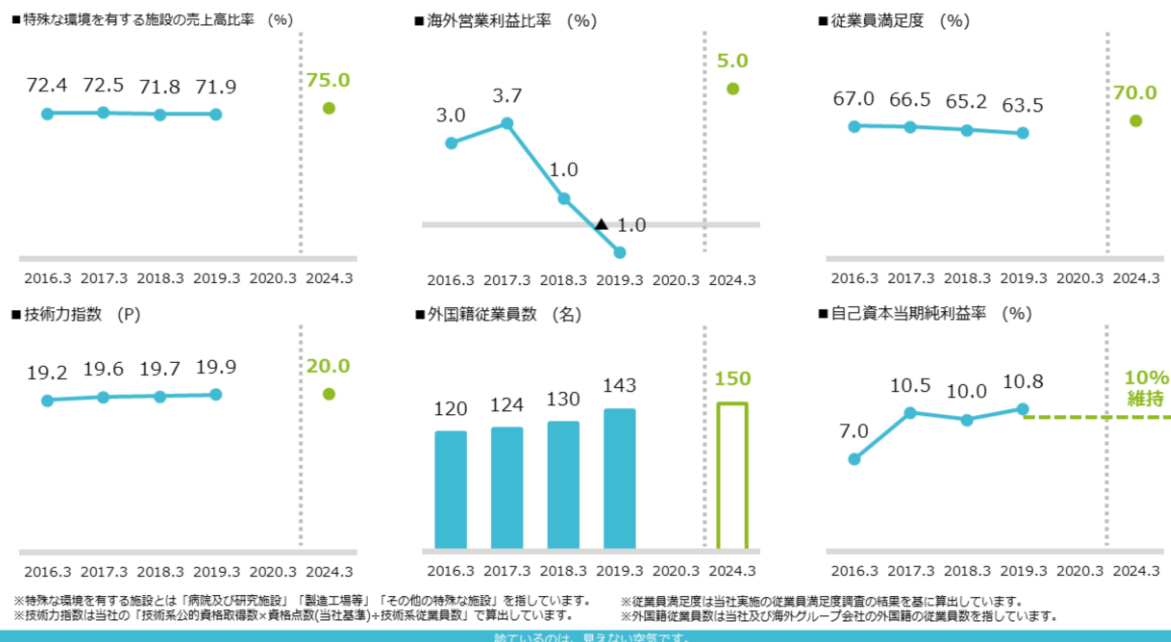
IV.2019中期5カ年経営計画

「2019中期5カ年経営計画」の策定にあたり、その基となる10年後の目標を設定いたしました。

長期ビジョン「全てのステークホルダーの幸せ向上」達成のために、

- | | | |
|---|-------------------|---------|
| 1 | 特殊な環境を有する施設の売上高比率 | 80%以上 |
| 2 | 海外営業利益比率 | 10%以上 |
| 3 | 従業員満足度 | 80%以上 |
| 4 | 技術力指数 | 22P以上 |
| 5 | 外国籍従業員数 | 200名以上 |
| 6 | 1株当たり当期純利益 (EPS) | 60円以上 |
| 7 | 自己資本当期純利益率 (ROE) | 10%以上維持 |

上記7つを10年後に達成し、社会全体の価値向上 (ESG) へ繋げることを目標とした上で、今回、「2019中期5カ年経営計画」を作成いたしました。



IV.2019中期5カ年経営計画

「2019中期5カ年経営計画」の目標です。

■特殊な環境を有する施設の売上高比率・・・5年後に75%に
 ワンストップサービス対応を強化し、特殊な環境を有する施設に重点を置くことで、安定的な収益に繋げてまいります。

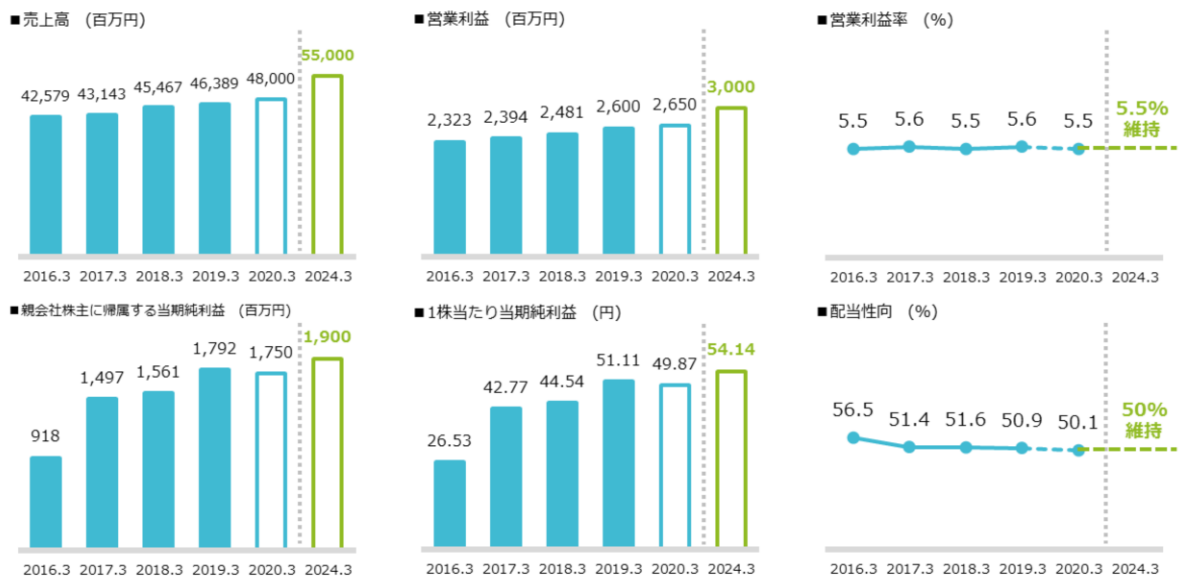
■海外営業利益比率・・・5年後に5%に
 日本国内と同様に技術力だけではなく提案力を強化することで、実現を目指します。

■従業員満足度・・・5年後に70%に
 現在、「採用・広報プロジェクト」、「制度・環境改善プロジェクト」、「作業効率改善プロジェクト」の3つのプロジェクトを推進し、採用の強化を推進するとともに、従業員の福利厚生や給与水準、手当等を充実させること、作業効率化ツールの導入を検討すること等によって、従業員満足度向上を図っております。

■技術力指数・・・5年後に20Pに
 技術力指数とは当社で決めたルールにより算出したものですが、資格取得の促進や技術教育の強化により、今後、更に従業員が増えていく中で20Pを指標とし、維持したいと考えております。

■外国籍従業員数・・・5年後に150名に
 昨今、国内人口が減少する中で安定的に経営していくには、グローバル経営の推進が必要となってきます。2019年3月期現在、外国籍の従業員は143名ですが、これを150名にします。

■自己資本当期純利益率 (ROE)・・・10%を維持
 配当性向50%以上を維持することにより、ROEは10%を維持してまいります。



※2016.3以前のEPSは2014年4月1日付及び2016年4月1日付で株式分割(1:2)を実施したことによる調整をしています。

診ているのは、見えない空気です。

24

IV.2019中期5カ年経営計画

2019中期5カ年経営計画の数値目標です。

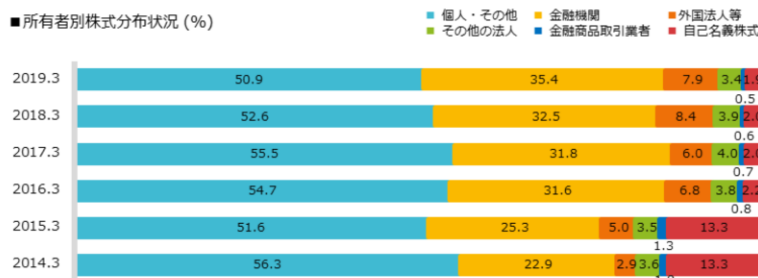
- 売上高・・・5年後に550億円に
- 営業利益・・・5年後に30億円に
- 営業利益率・・・5.5%を維持
営業利益率は、現在5.5%程度を堅調に維持しておりますが、今後も5.5%を維持していくことで、当社が安定的に発展すると考えております。
- 親会社株主に帰属する当期純利益・・・5年後に19億円に
- 1株当たり当期純利益・・・5年後に54円に
- 配当性向・・・50%を維持

数値目標達成のために、日本国内では製造工場等を中心とした、特殊な環境を有する施設における売上高の増加を、海外では省エネルギー・省コスト提案等、当社の強みを生かして収益増加を図り、10年後を見据えながら、「2019中期5カ年経営計画」を推進してまいります。

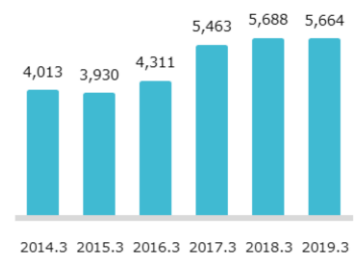
- I. 日本空調グループの概要
- II. 日本空調グループの強み
- III. 業績ハイライト
- IV. 2019中期5カ年経営計画
- V. 株式情報

株式情報でございます。

■所有者別株式分布状況 (%)



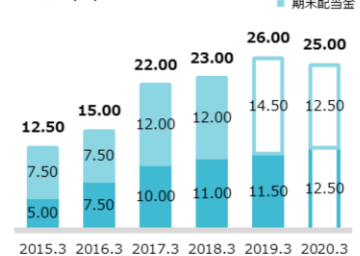
■株主数 (名)



■株価 (円)



■配当金 (円)



※2016.3以前の株価及び1株当たり配当金は2014年4月1日付及び2016年4月1日付で株式分割(1:2)を実施したことによる調整をしています。

※PERは2020年3月期予想値、PBRは2019年3月期末実績値を使用しております。

※配当性向及び配当利回りは2020年3月期配当予想値を使用しております。

26

診ているのは、見えない空気です。

V. 株式情報

株式分布状況としては、

2019年3月末現在、「個人・その他」の割合が減り、「金融機関」が増えております。「外国法人等」は8%程度です。

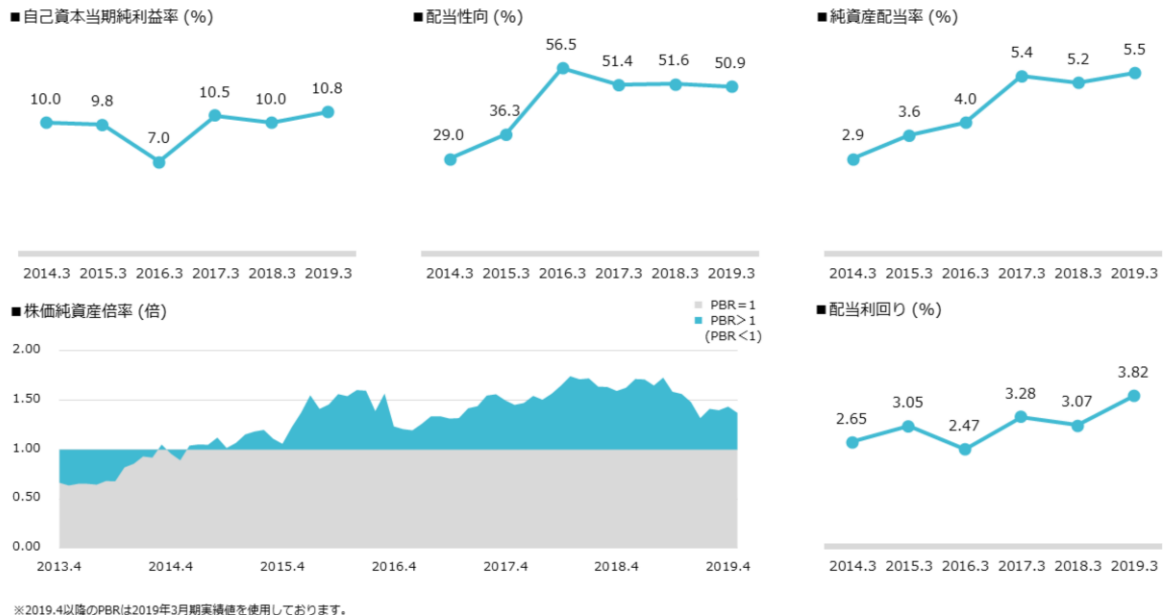
2016年2月に自己株式を消却し、2019年3月末現在、自己株式は役員にストックオプションとして配分する分が残っております。

2019年3月末現在の株主数は5,664名、株価推移は700円弱で推移しております。

配当金は、2019年3月期は親会社株主に帰属する当期純利益が、特殊な要因（日本空調四国(株)の吸収合併による税効果）で増加したことにより、当初の期末配当予想の1株当たり11円50銭に対し、3円増配の14円50銭とすることで、年間配当金は1株当たり26円※（連結配当性向50.9%）とさせていただきました。

※2019年6月21日開催の第56回定時株主総会にて付議予定。

2020年3月期の予定としては、中間・期末それぞれ12円50銭の年間25円（連結配当性向50.1%）とさせていただく予定です。



V. 株式情報

2014年3月期からの推移です。

配当性向は2016年3月期から50%を維持しております。これからも配当性向50%を維持し、利益を増やすことで、配当の金額を増やしたいと考えております。

純資産配当率は5.5%と良い数字だと思います。

配当利回りは3.82%と上場企業の利回りの平均値から見ると高い水準ですので、投資対象と考えていただけたらと思います。

以上、簡単ではございますが、当社の2019年3月期決算説明とさせていただきます。

www.nikku.co.jp

IR担当：経営企画部

TEL：052-773-2513 FAX：052-771-9790

E-mail：ir4658@nikku.co.jp

本資料は、日本空調サービス株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる内容の更新・修正を行う義務を負うものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に記載の数値は、全て連結で表記しております。(別途、注記がある場合を除く)

本資料は、提供されましたご本人様限りでご利用ください。本資料のいかなる部分についても一切の権利は当社に帰属しており、電子的もしくは機械的にまたはその他の方法を問わず、本資料の全部または一部を、無断で引用、複製または転送等により使用しないようお願いします。